

小さく住む家

平成 28 年度第 2 回採択

建設地	： 熊本県熊本市	竣工	： 平成 30 年 3 月	敷地面積	： 210.09 m ²
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 71.79 m ²
設計者	： すまい塾 古川設計室（有）	構造・階数	： 木造軸組・地上 1 階	建築面積	： 79.61 m ²

■提案の概要

- 平屋建ての、小家族のための小規模な住宅。高温多湿で雨量が多い建設地の気候風土に対して、深い軒庇、夏場は窓を開放して就寝可能となる格子網戸付きの南の大窓（木製でフルオープンとなる）や、それ以外の北東西各方角の木製面格子付きの建具、シロアリ被害の点検が容易な石場建て、床下の冷気を室内に誘う床下換気システム（冬期以外）などの技術が採用されている。
 - 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、土塗壁、地場製作の木製建具、土間、下地材を用いない単層床板張りを採用している。
 - 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、多層構成の建具、土壁塗り、薪ストーブ、地元職人による工事、地域産材の使用や古材のリサイクルなどの対策や暮らし方を講じている。
- 併せて、外壁（土塗壁の外側）・屋根・床の断熱構造化（自然素材系断熱材を使用）を施し、また地場にある自然材料を多用しているために修繕がしやすいことや、生産時・処分時のエネルギー低減となることも考慮している。



深い軒・格子・板張りの北側外観





古材の梁や建具を活用した室内空間





家族室を中心に各個室につながる空間構成

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 



環境負荷低減対策 

□深い軒・庇  

軒の深さ：1225mm、926mm





深い軒・庇

□多層構成の建具  

主要な開口部には内障子を設置している。





多層構成の建具

□土塗壁  

厚さ：60mm





土塗壁

□木製建具  

内障子に木製の古建具が数か所で使用されている。




木製建具

□床板張り  

床材に杉縁甲板 30mm が使われている



床板張り

□複数の窓の位置による通風への配慮 

床下からの外気導入を図っている。





複数の窓の位置による通風への配慮

□畳の使用  

和室の畳に本畳を使用している



畳の使用

□地域産の材料の使用  

熊本南の大関山から産地購入した木材を乾燥させて使用している。



地域産の材料の使用

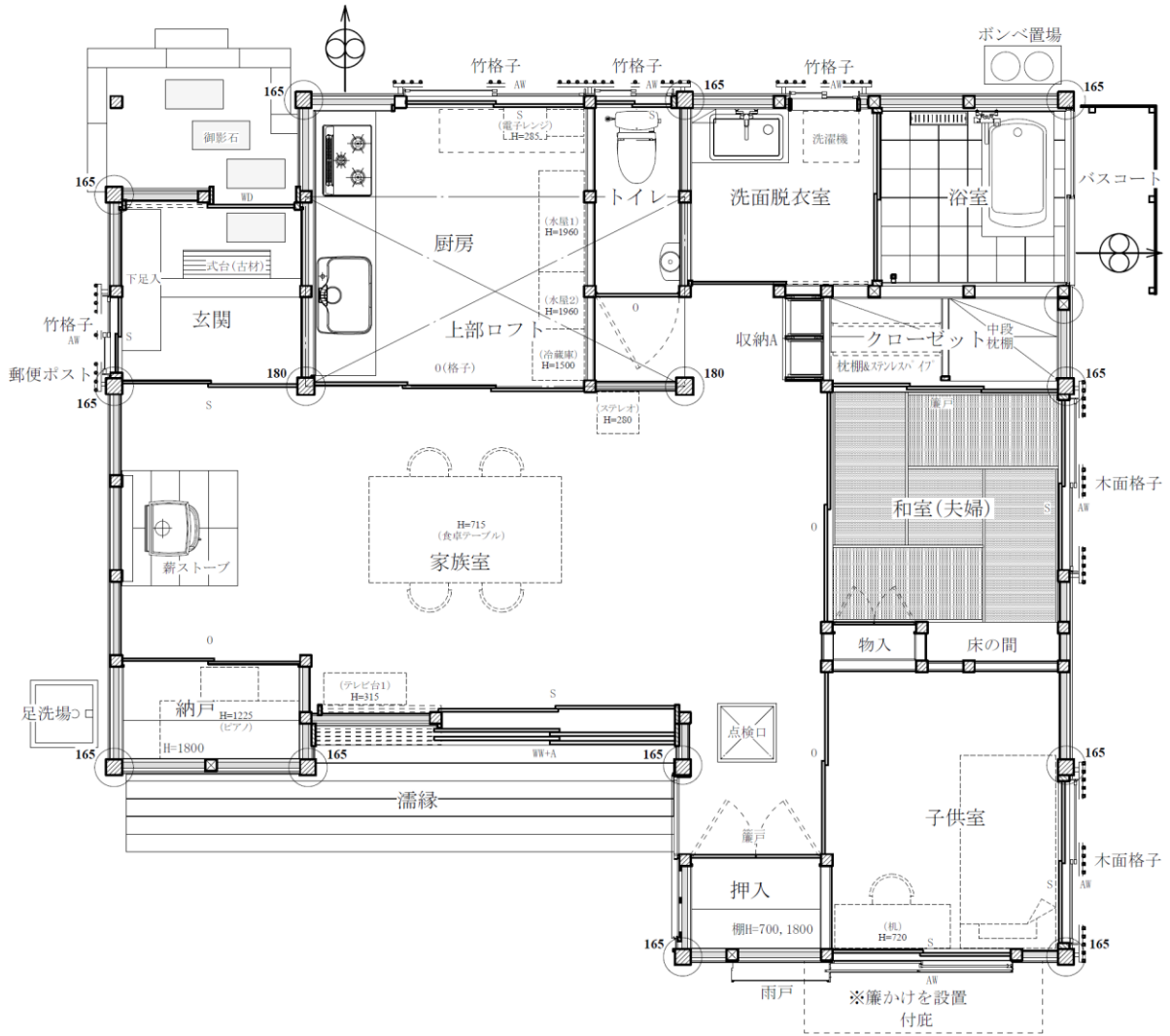
□地域の建築職人・大工の登用  

瓦と設備機器以外は地元で調達できる建材を使用している。

地元の職人による工事である。

■エネルギー性能

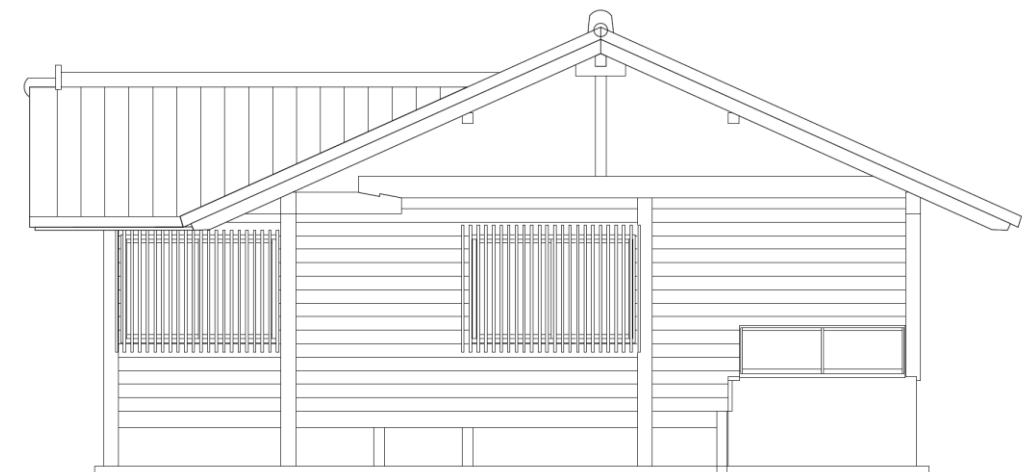
項目	基準値	設計値
評価方法	Web プログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6 地域 (熊本県熊本市)	
外皮平均熱貫流率 (U _A 値)	0.87 以下	1.13 W / (m ² ・K)
一次エネルギー消費量	71.7 以下	70.6 GJ / (戸・年)
一次エネルギー消費性能 (BEI)	1.0 以下	0.91



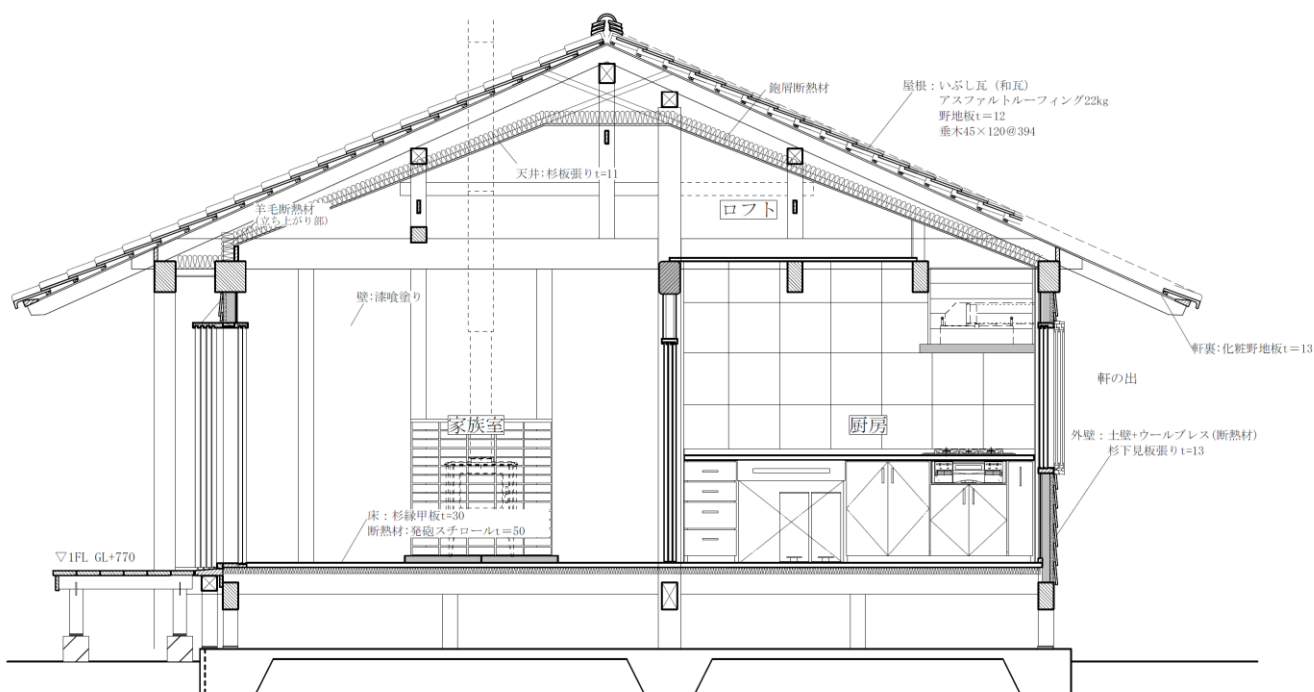
平面図



南側立面図



東側立面図



矩計図

■お施主様の声

木造で家建てたいという思いを持っていたので熊本県の森林組合のホームページを検索し、自分たちの考えが一番近いすまい塾 古川設計室さんに依頼しました。

大きな空間を中心に、そこからいろいろな空間が繋がっているような家がいいと考え、その希望をくみ取って設計に反映していただきました。

床の肌触りや木の香り、古材の落ち着いた雰囲気（とくに建具や欄間）、構造的な安心感などがとても気に入っています。また山での木の選定や伐採を見ているので、節や曲りのある材料への理解が深まり、家づくりの過程に参加しているので愛着が増します。多少暑い日でも家の中は快適で、窓を開けて風を感じながら、無理に「省エネ」を意識せず、心地よさを求めて生活することを大切にしています。

■設計者の声

お施主様には広さや部屋名といった直接的なことではなく、部屋の使い方や生活の仕方等のソフト面を聴くようにしています。そして家族が集まるよう、リビングを中心に、寝室や子供部屋、玄関、トイレにつながるよう放射状にプランニングしています。

快適性には風通しが重要だと考え、風を取り入れるために、風の出口をしっかりと設計しています。

「長持ち」する家を基本と考え、将来メンテナンスのしやすい住まいとするために石場建てとしています。それによって資源とエネルギーの削減に繋がる家づくりを考えています。風を大切にしながら、風鈴の音や浴衣などの様々な要素を集め、人間の快適性の許容範囲に収まるように工夫しています。そうした工夫が昔の日本建築の良さそのものなのです。